

経済の動き*

【全体感】

東北地域の景気は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、公共投資は震災復旧・復興関連工事を主体に高水準で推移している。設備投資は緩やかな増加基調にある。個人消費は底堅く推移している。住宅投資は高水準ながらも震災復興需要がピークアウトしているため減少に転じつつある。生産は緩やかに増加している。こうした中、雇用・所得環境をみると、労働需給は改善を続けており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回って推移している。

【各論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、発注状況を示す公共工事請負金額が前年を下回っているものの、震災復旧・復興関連工事を主体に高水準で推移している。

設備投資は、緩やかな増加基調にある。

9月短観（東北地区）における2017年度の設備投資は、非製造業では前年に多くみられた新規出店や更新投資の反動から減少しているものの、製造業を中心に省力化投資や能力増強投資などがみられており、全体では前年並みの計画となっている。

個人消費は、底堅く推移している。

主要小売業販売額は堅調に推移している。内訳をみると、天候要因による振れを伴いつつも、コンビニエンスストアは増加しているほか、スーパーは横ばい圏内の動きとなっている。百貨店は持ち直している。耐久消費財をみると、乗用車販売は増加しているほか、家電販売額は持ち直している。

住宅投資は、高水準ながらも震災復興需要がピークアウトしているため減少に転じつつある。

* 直近の金融経済統計および企業ヒアリングをもとに、東北地区6県（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）の金融経済情勢を取り纏め。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、緩やかに増加している。

主要業種別にみると、輸送機械は、高水準の生産を続けている。はん用・生産用・業務用機械は、外需の好調等を背景に増勢が強まっている。電子部品・デバイスは、持ち直している。情報通信機械等は、国内向けを中心に弱めの動きが続いている。この間、食料品等は、販路の喪失や人手不足から低調な動きとなっている。

3. 雇用・所得

雇用・所得環境をみると、労働需給は改善を続けており、雇用者所得は緩やかな増加基調にある。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

5. 企業倒産

企業倒産は、落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金動向をみると、個人・法人が前年を上回って推移していることから、全体でも前年を上回っている。

貸出動向をみると、個人向け、法人向けの増加を背景に全体でも前年を上回っている。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行仙台支店営業課 TEL：022-214-3120
